

5 アブラボテ

(コイ科)

兵庫県ランク:C

Tanakia limbata

環境省ランク:NT

種の概要

全長は6cm程度。流れが緩やかな河川中・下流域、それに続く用水路に生息する。繁殖期の雄はオリーブ色～茶色の独特の体色を持つ。雌も体色が褐色で、他のタナゴ類との識別は容易である。水生昆虫や甲殻類、藻類等を食べる雑食性。産卵期は春から夏で、カタハガイ、オバエボシガイ、マツカサガイなどの二枚貝の鰓に卵を産み付ける。1年で成熟し、寿命は2年。日本固有種で濃尾平野以西の本州、四国の一部、九州に分布する。



写真提供: 兵庫県立人と自然の博物館(撮影: 増田 修)

県内における生息状況及びその他特記事項

県内では日本海側の由良川水系、瀬戸内海側の多くの水系、また淡路島の三原川水系に分布する。他のタナゴ類と比較して確認地点数はやや多い。淡路島では三原川水系大日川から採集記録があるものの、その後70年以上記録が途絶えており、危機的な状況に置かれている可能性がある。

保護上の留意点

産卵基質がイシガイ科の二枚貝であり、この二枚貝のグロキディウム幼生は主にヨシノボリ類に一時寄生するという複雑な関係の中で本種はその生活史を成立させている。河川改修等で一旦この関係を崩すと回復には長期間を要する。2002年に河川改修の行われた武庫川上流区間では、10数年経った2016年に至っても産卵基質となる二枚貝の個体数が回復しておらず、本種も減少したままである(田中, 2014)。

県内分布

神戸市、宝塚市、三田市、加古川市、西脇市、三木市、高砂市、小野市、加西市、加東市、姫路市、相生市、赤穂市、たつの市、市川町、福崎町、太子町、上郡町、佐用町、篠山市、丹波市、南あわじ市

【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励

主要な選定理由

人為性	激減	
	環境	○
	捕獲	○
特殊性	遺伝	
	特殊	○
学術性	孤立	
	極限	
	限界	
	希少	



生息確認時期
 2005年以前
 2006年以降